

風

鈴木 潤子

(0歳児おひさまぐみ)

風をテーマとした理由と背景

部屋の窓やテラスから見える、大きな欅の木。大きく揺れているのを指差して気がつく子がいた。部屋のカーテンが風で吹かれる様子も見ていた。わらべうた遊びで、布を使うと、風を感じて喜ぶ姿も見られた。色々な風を感じていく姿を見ていききたいと思った為選んだ。

自然の風と、遊びの中から感じる風。色々ある。戸外に出て実際に感じる事、サーキュレーターや布を使って、意図的な方法での風を感じる事、色々な風を感じながら、子どもの表情など、感じていく様子を見ていききたいと思った。

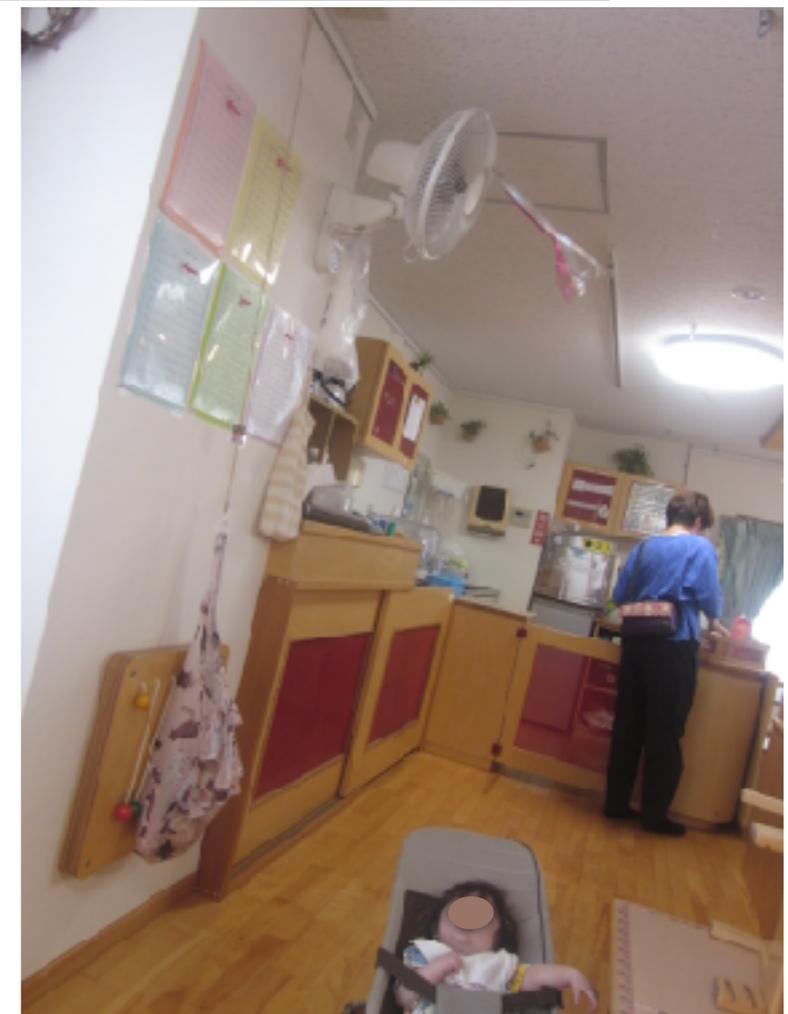
きっかけとなった姿

毎日過ごしている部屋は、窓越しからいつでも外の様子を見ることができる。

入園したての春の日に大風が吹いた。大きな欅の木が揺れている様子を見ている子どもの姿があった。四季を通して、自然の風をどのように感じてどう感じていくのかが気になった。

夏に室内に設置された扇風機。そこから来る風を感じている様子があった。扇風機の先に紙テープをつけてみると、見上げる姿があった。

自然の風と遊びの中からの風。どう感じていくのか色々な方法を試してみたいと思った。



活動1 わらべうた遊び

2024/9/10・11/21

期待する子どもの経験・準備や環境

いつも部屋に置いてある青い布を使う。わらべうた「うえからしたから」に合わせて風を感じる。何回も楽しんでいるものである。

子どもの様子

9/10青い布が出てくると、集まって来て布の下に座る姿があった。何回か繰り返すうちに、手をあげたり、上を向いて、風がくるのを待っている様子も見られた。目には見えないが、風が吹いてくるのを感じているようだった。

11/21保育者が座って青い布を持ち、波のようにゆらゆらさせると、不思議そうな顔で暫く見つめている子もいた。触りはしないものの、真剣な表情で見ていたので、「これはなんだろう？」と考えていたように感じた。その次は大きな半透明の白い布を持ってきて、パラバルーンのように頭上でふわふわ動かしてみた。はじめは少し離れたところで様子を見ていた友だちも、その様子を見て少しずつ近くにやってきていた。布が顔の側まで降りてくると、笑顔で手を伸ばして楽しんでいる様子も見られた。



振り返り

自身として

- ・ わらべうた遊びを継続していることで、準備している時から集まる姿があった。
- ・ 子ども達が自分でやりたい気持ちが増えているのを感じた。
- ・ 風をどう感じていくのか、今後の楽しみ方を考えていきたい。

クラスとして

- ・ 動きがある遊びになるので、広い場所で周囲に物が無いようにした方がいい。
- ・ 低月齢児の参加も出来るように、少人数で取り組むのも良い。

窓際

散歩先で拾った落ち葉を飾ったり
お絵描きした画用紙でへびを作り
窓際に飾る。風が吹いた時に揺れる
様子に気が付いたり視覚から捉
えられられるようにした。



活動2 風船

2024/12/2

期待する子どもの経験・準備や環境

・風船・空気入れ・

風船遊びは度々していたが、膨らませる準備段階から参加する。今まで見たことのある風船だが、どのように変化していくのか、一緒に観察していきたい。

子どもの様子

風船の空気を入れる道具に興味を持つ子が多かった。空気を入れることにより、風船が膨らんでいく様子を手で確かめていた。大きく変化した風船を近くまで来て見ていたが、その後、膨らんでいく風船を手で握りしめていた。力強く握っていたので、小さくなったり大きくなったりする感触を確かめていた。膨らんだ風船を結ばずに渡してみると、中から空気が出てきて、顔や髪の毛のあたりに風が吹いて、「何が起きたの?」という感じで驚いて固まっていた。膨らませている途中で手を離すと勢い良く風船が飛んでいくのを見てびっくりしていた。

風船をつると、「ぽーん。ぽーん。」と声を出して風船を叩いていた。「風が吹いているみたいだね。」と話すと「こいこいこい。」と部屋に置いている青い布を指差していた。よくやっている布遊びを思い出したようだった。



振り返り

自身として

- ・ 子ども達と一緒に、風船を膨らませる道具を触ることができて良かった。
- ・ 空気を入れたり、出したりする中で、勢いよく出た時の反応が様々であった。喜んでいる子と怖がる子といたので、個々に合わせた対応をしていきたい。

クラスとして

- ・ 空気入れの道具に関心を示す子どもが多かった。数を増やしても良かった。
- ・ 興味のあるものをじっくりと触れる機会が持てて良かった。

活動3 うちわ

2024/12/13

期待する子どもの経験・準備や環境

・風船・うちわ・

新たな道具としてうちわを導入した。うちわを動かすことで、風が出るのが感じられたらと思う。風船と一緒に使うとどの様になるか見たい。

子どもの様子

風船を仰ぐとふわふわ飛んでいくのを見て、「お〜！」と追いかけたり、保育者に顔を仰がれて笑っている友だちや、近くにやってきて一緒に仰いであげる子もいた。風船を膨らまして、その後しぼめたり空気を出したりしていたので、風を感じている様にも見えた。うちわを出すと、うちわの風も気に入ったようで風の近くに顔を近づけたり風船をうちわでパタパタと仰ぎ、風船を飛ばしている姿も見られた。うちわを使って風を起こすと、風船に風をあてたり、子ども達に風をあてるなどして風を感じる瞬間があったようだ。



振り返り

自身として

・うちわを仰ぎながら、風船を動かすことができることに気がついて、追いかけている姿も見られた。うちわがどんな風になっているのか見ている様子もあったので、またじっくりと時間をとって遊んでみたい。うちわを仰ぐことで、風が出ること等の経験を今後も色々な風を感じていくことに繋げていきたいと思う。

クラスとして

- ・前は、風船だけだったが、色々な道具を知る機会を持てる事は、今後の探究活動にも繋がっていくと思う。
- ・広い場所で活動できると良い。

活動4 ビニール凧

2025/2/10・2/13

期待する子どもの経験・準備や環境

・ビニール凧・

シール遊びを夢中で取り組む子どもが増えてきた。ビニール袋にシールを貼り、凧づくりをした。歩行も確立してきているので、凧あげをする中で、風をどのように感じていけるのか試してみたいと思った。

子どもの様子

1回目は凧を持ち、走り回る感じであった。風が吹くと、ビニール袋が膨らみ、その勢いで凧が動くことを発見し、自然の風を受けて、そのまま風が吹くのを待ち構えている子もいた。風を感じてか、その場で立ち止まり、風が吹くとビニールが舞うのを楽しんでいた。2回目はさらに強風だったが、前にやったことを覚えていて、手から離れたビニール凧が風で床の上でくるくると動く様子を見ている子がいた。すると真似をして、敢えて、床にビニール凧を置いて、風で動く様子を観察していた。周りにいた子も、同じように試している様子もあった。



振り返り

自身として

・ 凧あげ＝風というイメージもあり今回試した。自分一人ひとりの手作り凧を持つことで、やってみたいという気持ちも向上していたように感じた。最初は凧を持って走っていたが、風が吹くことで、持っているだけで、凧があがることがわかってきていた。言葉はなくとも、経験からそのようなことに気がつけることに驚いた。また風の強い日に、もう一度行えたことで、自然の風を感じてそこから別な方法を探求しながら見つけ出せたことはすごいことだと思った。子ども達の自由な発想や感受性などを改めて見逃さないようにしていきたいと思った活動であった。

クラスとして

- ・ 一度で終わらずに、続けて出来たことで、風を感じる経験になった。継続することの大切さを学べた。
- ・ テラスで、クラスの子ども達がいっものように過ごしている中で、探求活動が行えて、見えることで、他の子も興味を持てるきっかけ作りとなった。

ビニール凧をあげての探求 (動画)

1回目は、走りながら凧あげをしていた。手に持っている時に、風が来る事で、そのまま動かずビニール凧が浮かぶことに気がついた子もいた。2回目の時の大風では風が吹くのを待ってビニール凧を上に乗せている子どももいた。遊び方が変化していった。

自然の風を受けて、そのまま風が吹くのを待ち構えていた。風が吹くと、ビニール袋が膨らみ、高く上がる様子を見ていた。2回目はさらに強風だったので、手から離れたビニール凧が風で床の上でくるくると動く様子を見ていた。その様子を近くにいた子も見ている。その子も真似をして、敢えて、床にビニール凧を置いて、風で動く様子を観察していたので驚いた。

強風で、凧が手から離れて床についた。そこから、風でビニール凧が動いたり、飛ぶ様子に気がついた。自分の所に戻ってくる様子もあり。そこから、色々な方向に行く様子を楽しんでいた。



活動5 サーキュレーター

2025/2/26

期待する子どもの経験・準備や環境

- ・サーキュレーター・風船・絵本

風に興味を持ち始めた子ども達。最初に絵本で導入してみる。「風」というものを視覚から感じられたらと思った為。サーキュレーターの風を使う。

子どもの様子

サーキュレーターに不思議そうに近づいて来て、手を出したり顔を近づけていた。風が吹く様子を最初は遠目で見ていた子も周囲の友だちの声を聞いて覗き込んでいた。顔に風があたることを喜んでいた。

サーキュレーターの装置の方が気になる子もいた。装置の向きを変えたり、風力のスイッチを触っていた。風の向きを上向から少し手で角度を変えて横向きにしていた。

サーキュレーターの風を上に向けて風船を近づけると、風船が空中に浮くのを見て、はじめは不思議そうにしていたが、だんだん仕組みがわかってくると、風船を近づけていた。上手く風船が浮かぶと「きゃ〜！」と声を上げて嬉しそうであった。指さししながら、周囲にも伝えていた。風船が何個かあったので集めて持ってくる子もいた。



振り返り

自身として

- 風をどのように感じていくのか、サーキュレーターを使ってみた。
- 風が出てくると、顔を近づけたり手で触ろうとしたり、目に見えないものだが、どうやって感じようか試行錯誤している様子が見られた。
- 新しいものへの好奇心の強さが感じられた。
- 今後もサーキュレーターを使っでの活動を取り入れていき、変化を楽しみたい。

クラスとして

- サーキュレーターに興味を持つ子が多かった。
- 場所がやや狭かったのと、コンセントを使用するので、延長コードなどを使い、養生テープで貼り、場所を固定した方が安心して活動できる。
- 風船の大きさを小さめにして均等にするなど、色々な経験をしていけると良い。

活動6 サーキュレーター

2025/3/3

期待する子どもの経験・準備や環境

- ・サーキュレーター・小さい風船・シフォン・透明な袋・

サーキュレーターを使う。風を出してみる。風船を小さめにして同じぐらいの大きさにする。

シフォンも用意して、前回との違いを見ていく。

子どもの様子

低月齢児もサーキュレーターの装置に興味を示して歩み寄ってきた。ボールやブロックを置いていた。風を体感する中で、風船が浮かび上がると喜んでいて、手をおいて、風を確かめるような仕草も見られた。風船を何回も保育者に渡してきた。

高く飛んだ風船とサーキュレーターの風の中に保育者が手を入れると、風船が落ちてきた。その様子を見ていた子が、手を出して真似をしていた。でも風を少し怖いと感じているようで、サーキュレーターから離れた場所からやっていた。透明の大きな袋や布を使って、サーキュレーターの上に置いてみると風で膨らんでいく様子を見て、やはり自分でも「やりたい。」と近づいてきた。

前回のことを覚えていたようで、風の出る場所に顔をすぐに近づけていた子もいた。顔だけでなく、手に風をあてたり吹いてくる風の感触を楽しんでいた。風船を出すと、高く飛ぶ様子を、「おー。」と声を出しながら見上げていた。そして同じように風船を持ってきて、風にあてていた。



振り返り

自身として

- サーキュレーター構造がわかってきたようで、自分で触って確かめる姿が見られた。一度で終えず、継続することで、色々な楽しみ方を見つけられることがわかった。
- 風船が風で浮かぶことや、浮かぶ風船の間に手を入れて風船が落ちてくる様子も見ていた。夕方など、1日の中で色々な時間を利用して、体験できる機会を作っていた。
- 自分でやるうとする姿が増えてきた。

クラスとして

- 興味ある子が参加できる場所を確保していく。
- 何回かやるうちに、前に経験したことを、別の子が同じようにやり出していた。その姿から、機会を多く設け、今後も続けていけたら良いと思う。

活動7 サーキュレーター

2025/3/10

期待する子どもの経験・準備や環境

- ・サーキュレーター・風船・大きな透明な袋・

サーキュレーターを使って、風を出してみる。
サーキュレーターの風を利用して、風船や大きな透明の袋を使っ
ての変化を見ていく。

子どもの様子

自分で挑戦する子が増えてきた。仕組みがわかってきている
ようだった。

風船が高く上がる様子をよく見ていた。その後、同じよう
に、サーキュレーターの風の上に風船を置いて、高く飛ぶ様
子を見ていた。飛び上がった瞬間、「おー。」と驚いたよう
な嬉しそうな表情をしていた。何度も挑戦しようとする意欲
が感じられた。

大きな透明な袋を置いておくと、前回のことを思い出したの
かサーキュレーターにかぶせていた。高く上がる様子を見て
いた。

友だちと一緒に風船を置く姿もあった。同時に風船は浮かび
上がり、嬉しそうであった。



振り返り

自身として

- ・何回か経験したことで、サーキュレーター風の風に入れると、風船が落ちてくることがわかり同じように手を伸ばしていた。よく見ているなと感心した。
- ・友だちと一緒にやりたいという姿もあった。楽しさを共有したい様子に見えた。
- ・自分でやりたいと挑戦したり、試行錯誤する姿がでてきた。「やりたい。」が出来る環境作りをしていくことが大事であると思った。

クラスとして

- ・保育者の様子もよく見ているので、保育者も何人かいる中で活動が出来ると良い。

活動スケジュール

	日付	活動内容	時間	人数
1	2024/9/10	わらべうた遊び	10分程度	9人
2	2024/11/21	わらべうた遊び	15分程度	10人
3	2024/12/2	風船	10分程度	8人
4	2024/12/13	うちわ	15分程度	10人
5	2025/2/10	ビニール凧	15分程度	10人
6	2025/2/13	ビニール凧	15分程度	8人
7	2025/2/26	サーキュレーター	15分程度	10人
8	2025/3/3	サーキュレーター	10分程度	8人
9	2025/3/10	サーキュレーター	20分程度	6人

まとめ

「風」という抽象的なことの理解は、とても難しいものではあると思う。自然な風と、遊びや道具などを利用しての風と両方試してきた。自然な風を感じたり見つけた時の子ども達の笑顔や心地よく感じている様子は、月齢などでもだいぶ違いがあることがわかった。

凧あげの時の強風では、想定していなかった「風」を感じることができた。子ども達自身がそれを利用して遊び方を変化させていく様子を見ることが出来た。改めて子ども達の感受性の強さに驚いた。一度だけで終わることなく、同じことを繰り返したり、継続することにより、その時々で違うことを経験していけることを学んだ。

「風」を感じて、物が揺れたり、なびいたり、回ったり、進んだり、くっついたりする体験が出来たと思う。